

6月1日 オンライン

新型コロナの影響で、オンラインでの会議が増えてきた。そもそも人見知りな私は、画面の中の複数の顔に見つめられると疲れてしまう。別に私を注視しているわけではないが、複数の顔が平面に規則正しく並んでいる光景は、どう考えても不自然である。

昔生徒にこんな話をしたことがある。「モナリザってみんな見たことがあるよな。でも、それってある意味、偽物だよ。本物のモナリザはルーブル美術館にあって、そう簡単にはお目にかかれない。実は知っているつもりでいても本当は知らないことってたくさんある。きっと本物のモナリザには絵の具の凸凹や筆の流れがあって、ダビンチの息遣いまで感じられるはずだ。」

私自身本物のモナリザを見たことがないが、本物には本物の凄さがあるのは事実だ。演劇やコンサートもしかり。スポーツも授業だってそう。同じ“場”を共有している者同士の緊張感がそこにはある。

確かにオンライン会議は便利だが、便利だけを追求すると希薄になる。生身の人間は厚みの中で生きているのだから。

